



## 夏季の電力需給見通しと対策について

2017年5月12日に、「電力需給に関する検討会合」が国で開催され、夏季の電力需給の見通し及びひっ迫時対応について検討がなされました。

今夏については、10年に1回程度の猛暑を想定してもなお、電力の安定供給に最低限必要とされる予備率が3%以上確保できる見通しとなり、数値目標付きの節電協力要請は見送られました。

しかし、万が一、電力需給がひっ迫する場合に備えて次の対策を行うこととしました。

### (1) 需給ひっ迫時の備え

- ①発電所等の計画外停止のリスクを最小限にするため、電気事業者に対して、発電設備等の保守・保全を強化することを要請する。
- ②電力広域的運営推進機関に対して、エリア内の需給状況を改善する必要があると認められる時は、速やかに、ほかの電気事業者に対して融通を支持する等の必要な措置を講じるよう要請する。

③電気事業者に対して、デマンドリスポンス<sup>※</sup>等、需要面での取組の促進を図るよう要請する。

④産業界や一般消費者と一体となった省エネキャンペーン等を実施し、2030年度に向けた徹底した省エネの取組を進めていく。

### (2) ひっ迫時に備えた情報発信

- ①電力需給状況や予想電力需要についての情報発信を行う。

②上記の対策にもかかわらず、電力需給のひっ迫が予想される場合には、「需給ひっ迫警報」を発出し、節電の協力を要請する。

### ※ デマンドレスポンスとは？

電力系統の需給ひっ迫が予想される時間帯において（夏季：正午すぎ、冬季：朝・晩など）、電力家が電力会社の要請に応じ、節電や遊休自家発電稼働させることによりピーク需要削減に寄与する仕組み。削減量に応じた報酬が支払われる。

**引き続き、無理のない範囲での節電にご協力いただきますよう、お願いいたします！！**



### 冷房病について

冷房病という病名は存在しませんが、冷房が強効いた場所に長時間居た後、外気温にさらされることを繰り返したときに起こる体調不良と言われています。体温を下げる交換神経と体温を上げる副交感神経のバランスをきたすことが原因で、症状としては、肩こり、腰痛、頭痛、下痢、不眠、疲労感 etc…いろいろあるようです。

対策としては、規則正しい生活、ストレス発散、外気との温度差を5℃以内に抑える、適度に運動をし、体温調節機能を刺激すると良いようです。

冷房病もちょっとした eco 活で防げるかもしれませんね！

### 編集後記

タンスの引き出しに入れた除湿シートを取り換えようと見てみると、パンパンに膨れ上がっていました！この2、3年の湿気は特にひどいなあ～やっぱり地球温暖化！！と思いながら、おいしそうに出来上がったゼリー（！？）をじっと見つめてしまいました… RZ

編集・発行：千歳市 平成 29 年 7 月 28 日 第 29 号

市民環境部環境課環境計画係

電話：24-0590 e-mail: shoene@city.chitose.lg.jp

